

令和7年度 学校自己評価システムシート （さいたま市立 尾間木小学校）

学校番号 008

【様式】

学校教育目標	心豊かで たくましく 尾間木っ子の育成
目指す学校像	○よく整えられ、安全で美しい、潤いのある学校 ○共に学び合い、高め合う楽しい学校 ○規則と秩序のある歌声の響く学校

重点目標

1 全職員一丸となって取り組む学校課題研究の充実と授業力の向上

2 全校児童が自主的に行動し、「認め、褒め、語らせる」教育活動の充実

3 地域・保護者・近隣学校等との信頼関係を基盤とする学校づくり

4 明るく活気があり、安全で安心できる学校環境の充実

5 教職員一人ひとりのキャリアアップを目指した職場づくり

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	（8割以上）
	B	概ね達成	（6割以上）
	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和8年2月19日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	学びの質の向上に関する取組 ＜現状＞ ○全国学力・学習調査や市の学習状況調査では、今年度は、平均を上回った。「対話的な学び」に重点を置いて自分の考えを持たせる取り組みを継続させている。 ○基礎的な学習の積み重ね、全学年を通じた系統を意識した指導を行っている。 ＜課題＞ ○国語科では、文章と図を関連付けて読み取ることが課題で、算数科においてはデータを活用することと何を求められている文章から読み取ることである。 ○自ら主体的に取り組み、授業に見通しをもって学んでいくことである。	・学校課題研究「主体的で対話的な深い学びのもと、自分の考えを表現できる子」の充実 ・「学びのポイント」を活用し、基礎学力の定着と向上	①「主体的で対話的な深い学び」を定着させ「根拠をもとに伝えあう力」を育成し「自分の考えを表現できる」様にする。 ②根拠をもつての表現する際にタブレットを活用し、視覚的に学習内容を提示し理解度を高める授業づくりをする。	①学校課題研修評価の児童アンケートにおいて、「根拠をもって対話することが出来たか」と回答する児童が90％以上となったか。 ②学校自己評価の児童アンケートにおいて、「自分の考えを表現できたか」に 関係する項目で90％以上となったか。	・学校課題研究の達成に向けて「根拠をもって対話すること」を取り組み、アンケートで肯定的な回答が93％になり目標を達成することができた。 ・深い学びを達成するために「自分の考えを表現できる」ことに取り組み、アンケートで肯定的な回答が84％となり、ほぼ達成できた。	B	・来年度は学校課題研修3年目で自主発表を計画している。「根拠をもって話をする」次の段階を目指し発表会を成功させる。 ・深い学びを更に高みにもっていくために「自走する授業」を目指していきたい。
2	子どもの発達や心のサポートに関する取組 ＜現状＞ ○学校評価アンケートや全国学力学習状況調査の生活習慣や普段の生活に心の安定が見られる。 ○「心と生活のアンケート」の結果を基に児童の心に寄り添い、面談することで児童の育成を行っている。 ＜課題＞ ○ICT活用については、スキルの個人差が見られるので、教職員全体の向上が課題である。 ○児童の気持ちに寄り添い、多様化する保護者に対する理解と対応が課題である。	・「凡事徹底」と「褒めて・認めて・語らせる」教育の実践及び実現 ・生徒指導と教育相談に関する取り組みの向上を目指す	①声掛けをするときには、児童の言動を受け止め、認め・褒めて、自らの言葉で語らせることを行い、必要に応じて指導・助言をする ①「心と生活のアンケート」の結果を活用し、タブレット端末やアプリを使い分析し、児童の心の安定を図る。 ②アンケートでネガティブな回答をした児童にこそ、注意し一人でも減らすようにする	①学校自己評価のアンケートにおいて、「先生は、がんばりや善い行いに対して、認めたり褒めたりしてくれますか」の項目で95％以上を維持 ①毎月、児童の情報を共有・分析・対応を強化する生徒指導委員会、教育相談部会の確実な実施。	・「凡事徹底」と「褒めて・認めて・語らせる」の重点目標にそって教育実践を行い、「先生は、がんばりや善い行いに対して、認めたり褒めたりしてくれますか」の項目において94％でほぼ維持することができた。 ・生徒指導と教育相談で学年から上がってきた事項を教職員全員で情報を共有し、迅速・丁寧な対応をすることでほぼ解消することができた。	A B	・普段の生活において、当たり前のことを当たり前に行えるように、教職員と児童とで「凡事」の内容について共通理解をすることを日々の生活の中で確認し実践していく。 ・生徒指導部と教育相談部と管理職で常に連携し、情報を共有し報連相と見届けを継続していく。 ・一人で抱え込ませないように、職員間のコミュニケーションをスムーズに行えるように、まず職員室を更に風通しの良い雰囲気にしていく。
3	地域と共にある学校づくりに関する取組 ＜現状＞ ○学校運営協議会を推進させ、熟議のもと協働して児童を見守る・育成することを確認し、今年度の方針を確認できている ＜課題＞ ○学校運営協議会で熟議し決まった内容を、保護者・地域で多くの方々と共に共有して、協働することが課題である。	・SNSを活用し教育活動を公開して情報の共有 ・小中一貫教育に基づいた、地域との協働活動	①HPにブログを立ち上げ、普段の教育活動を公開し、情報を共有する ②SSN 会議で情報を共有することで、小中学校と地域が一緒になり、子どもたちへの声かけ（あいさつ運動等）などを心がけ、交流活動を増やしていく ①学校運営協議会のページを活用し、積極的に活動内容を公開する。	①学校自己評価のアンケートにおいて、「学校は、教育活動の情報を地域に伝えている」と回答する割合が85％以上を維持 ①学校自己評価のアンケートにおいて、「学校、家庭、地域が協働して、児童の育成に関わる取り組みをしている」と回答する割合が90％以上を維持	・ブログやHPを活用し、日々の教育活動を保護者、地域に広報することで、学校自己評価アンケートにおいて、「学校は、教育活動の情報を地域に伝えている」と肯定的な回答が86％で目標を達成した。 ・地域との協働活動に取り組み、学校自己評価アンケートにおいて、「学校、家庭、地域が協働して、児童の育成に関わる取り組みをしている」と肯定的回答する割合が96％で目標を達成できた。	B A	・学校の教育活動に、今まで以上に多くの保護者及び地域の方が参加していただき、日ごろの教育活動についてご理解ご協力を得られるようにしていく。 ・学校運営協議会において、今後も児童との協議会を継続していく。
4	教育環境の整備に関する取組 ＜現状＞ ○学校施設の保守管理と計画的で確実な予算執行を図り、教育環境の向上をほぼ行われている。 ○リフレッシュ工事の終了に伴い、生活環境が戻り学校行事等の実施が以前ようになった。 ＜課題＞ ○制約から解放され、生活環境に起こる心身の変化やルールについて、生徒指導委員会でも共有し、学校全体で対応することが課題である。	・安全点検を活用し教育環境施設の整備 ・安全安心で居場所のある生活に取り組む	①備品点検と設備点検を適切に行い設備の充実を図る。 ②事務と連携を密にし、予算執行について学期ごとに目標を立て、計画的に執行していく。 ①毎月の安全点検を活用し、教職員、児童の施設設備の丁寧な活用を意識させる	①施設設備の点検を常時（毎日・毎月）行い安全な環境を実施。 ②教育環境整備のための計画的予算執行（R6：95％→R7：96％）を維持する。 ①教育相談・生徒指導の連携を密にし、施設設備の活用等について情報を共有する。	・安全・安心な教育環境を整備するために、安全点検や備品の整備を実施し、修理・修繕を計画的に行い予算執行率を96％維持し目標を達成できた。 ・安全・安心で居場所のある生活に取り組むために、教育相談・生徒指導の連携を密にし、「Sola る一む」などの施設設備の活用の活用する情報を共有することが十分できた。	A B	・管理職と事務職との連携を深め、安全・安心な施設設備の管理を進めていく。 ・児童の心の居場所づくりを目指し、教職員に経営方針として示していく。
	教職員のキャリア形成に関する取組 ＜現状＞ ○タブレット端末やアプリを活用する学習を目指しICTの活用を推進し、務作業時間の短縮を行っている。 ○キャリアステージに合わせ、研修等を提案し、今後の希望を聞きキャリア形成を図っている。 ＜課題＞ ○業務時間の効率化も必要であるが、「働きがい」の充実が課題である。	・キャリア段階に合わせた資質・能力の向上と研修について取り組む ・働き方改革や業務の効率化について取り組む	①経験年数に応じたキャリアアップのために、年間を通して研修を受講奨励する。 ②「尾間木小プラットホーム」を本格運用し、教職員が研修をすることで授業改善に役立てられたか ①教職員の意識アンケートで「働きがい」の項目の向上を図る。	①尾間木小プラットホーム」を本格運用し、教職員が研修をすることができたか。 ②授業改善に役立てようとする教員が多くみられ成果が見られたか。 ①教職員の意識アンケートで「働きがい」の項目で肯定的な回答が80％以上。	・職員との面談や尾間木小プラットホームの活用をとおして、キャリア段階に合わせて資質・能力に合った研修等を提示することができた。 ・教職員の意識アンケートで「働きがい」の項目において肯定的な回答が97％になり、目標が達成できた。	B A	・教職員との面談を今後も丁寧に行之、本人の環境を配慮しながら、提案していくようにする。 ・今後も「働きがい」と「健康」とのバランスを気にしながら学校経営をしていく。

8